

外科 マンスリーレター 2018.07

いつもお世話になっております、市立大津市民病院外科の藤田 覇留久と申します。このマンスリーレターも10回目を迎えた今回、これまでと趣向を変え、皆様にリラックスしていただけるような写真をいくつかご用意いたしました。というのも、私事ですが先日結婚し、1週間ほどお休みを頂き、モルディブに行ってまいりましたので、愛機のEOS9000D(Canon)で撮影した写真を紹介させていただきます。



簡単にモルディブに関してご説明させていただきます。モルディブは正式にはモルディブ共和国といい、1965年にイギリスより独立しました。現地ではディベヒ語という言葉が使われていますが英語は十分通じます。インド洋北部、インドの南西に位置する1400もの島々からなり、日本との時差は4時間ほどとなります。英語名のMaldivesはサンスクリット語で島々の花輪を意味し、モルディブの珊瑚礁の島々が輪を描くように並んで浮かんでいる様子を花輪に例えたものです。日本からはまずシンガポールで飛行機を乗り換え、首都のマレを目指します(後で調べると直行便や他のルートもあるようです)。モルディブは1つの島が1つのリゾートとなっており、各島まではマレから水上飛行機に乗って移動します。シンガポールでの乗り継ぎ時間も合わせるとざっと半日はかかりました。島にいるのは基本的にリゾートのスタッフと宿泊客で、観光客がごった返すということはなく、プライベート感たっぷりのリゾートを楽しめます。



← 水上飛行機
首都マレから各島まで直行します

人も少なくプライベートビーチ感満載です →





↑ 水上コテージ
部屋から階段を下りるとすぐ海に入れます



↑ 海鮮中心の食事を楽しめます
ボリュームも十分です

海の上に建つ「水上コテージ」は、モルディブを代表する風景として有名で、階段を下りればすぐに海に入ることができます。海のきれいさは言わずもがなでダイバーの聖地とも言われており、多くのリゾートはそれぞれのビーチ前ハウスリーフというダイブエリアを擁し、ビーチエントリーでギンガメアジやバラクーダの群れ、絨毯のようにしきつめられたサンゴ、様々なマクロフィッシュを見ながら自由きままにダイビングでき、ボートで少し足を伸ばせばマンタやジンベエザメにも出会えます。また有料ツアーとなりますが、シュノーケリングでもウミガメやイルカ、ジンベエザメを見に行くものもあります。

食事は島内にいくつかレストランがあり、新鮮な海鮮料理を中心に中華料理や、日本料理も楽しめます。

現地での滞在は5日間でしたが、毎日好きな時間にビーチで寝たり、シュノーケリングをしたり、ダイビングをしたり、ツアーを申し込んでウミガメを見に行ったり、と気ままに楽しむことができました。ジンベエザメを見に行くツアーも申し込みましたが悪天候で中止になり心残りとなりました。大した運動もせず、毎日3食レストランでおいしい食事をとり、帰って来た頃には2kg太っていました・・・。

お忙しいとは存じますが皆様も一度モルディブ旅行はいかがでしょう。
以上で今月のマンスリーレターとさせていただきます。
これからもご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



↑ 水中レストラン

階段を数メートル下りるとそこには水族館のような光景が！
魚たちを見ながら食事をするができます

